

稲穂北に輝く にぎりめし



令和4年度 穂北中学校だより

7月号

穂北中HP

校長

伊東 泰彦



中体連地区大会が行われました！

6月4日(土)から12日(日)にかけて、中学校総合体育大会(中体連)の地区予選が行われました。本校では、女子ソフトテニス部が団体で3位となり、個人戦と併せて県

大会に出場することとなりました。他に、社会体育の水泳で、自由形と平泳ぎの選手が県大会に出場します。今年の大会では、多くの部がかなりの善戦をし、

勝利まであと一歩という戦いをしてくれており、技術面や精神面での成長が感じられました。流れを引き寄せて勝ちに結びつけるまでの「詰め」が本

の課題かもしれません。【軟式野球】高鍋西中に初戦惜敗【サッカー】三財中に初戦惜敗【女子バレー】唐瀬原中に初戦惜敗【バドミントン】男女個人戦とも惜敗【女子ソフトテニス個人戦】藤田・上米良へ県大会出場【水泳】三年・谷川さん、一年・藪押くん県大会出場



軟式野球



ソフトテニス女子



サッカー



バドミントン



女子バレー

新「さいと学」本格スタート！

【一年生の郷土探究】

教材の一部▼▶

「児玉久右衛門はなぜあれほど苦勞してまで用水路を作ろうとしたのか」「記紀の道の整備に



込められた思いとは」「石井十次の偉業から仕事の意義を考える」など、一年生では、郷土を題材に現代までを見つめる探究を行っていきます。7月4日(月)にはフィールドワークを兼ねたバスツアーも行います。結果は、10月8日(土)の学習発表会でアウトプットします。

【三年生の探究・Future We Want】

西都市の全三年生は、郷土を学びのフィールドとし、「私たちのよりよい未来は私たちの手で…」をコンセプトとした探究・Future We Wantに取り組みます。

この学習内容は、昨年12/24に行った生徒会リーダー研修で生徒たちから出た意見をもとに構成されています。自分たちの学ぶ内容を自分たちで考える…、当たり前のようにこれまで実施されてこなかった取組で、今後の社会を担う人財育成につながる取組だと思えます。

中でも穂北中では、プロジェクト型の探究に取り組んでおり、「紙芝居」「花いっぱい」「プログラミング」「SDGsとエコバッグ」「郷土芸能の継承」の5コースで実際に7/4~6を中心にプロジェクトを展開します。7月12日の参観日の日に校内の発表会を行いますので、特に三年生の保護者の皆様はぜひご覧下さい。また、地域の方でも興味のある方は学校へお問い合わせください。【7/12(火) 10:20~12:10】

なお、校内予選を勝ち抜いた代表のグループは、8月1日に市民会館等で開催するオール西都の大会「さいと学アワード」に出場します。こちらも一般参観が可能ですので、興味のある方は穂北中学校まで音合わせ下さい。



5月のスタートアップガイダンス
穂北中から市内の全学校へ配信しました



12/24のワークショップの様子。生徒、地域、妻高生、職員が参加して、どんな力が付けたのかなどを協議しました。



プロジェクト開始！ 黒木種苗店の社長さんから栽培の仕方などを学び実践する3年生の様子

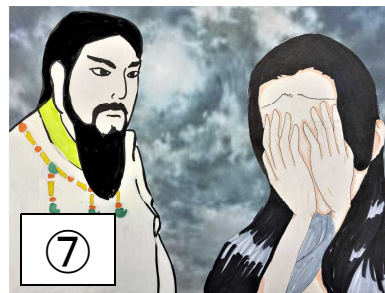
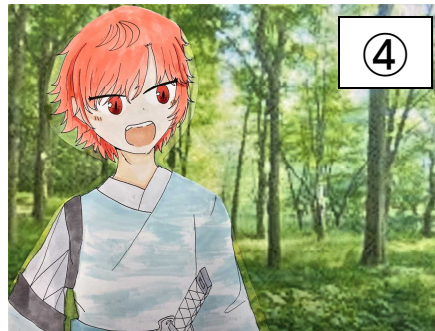
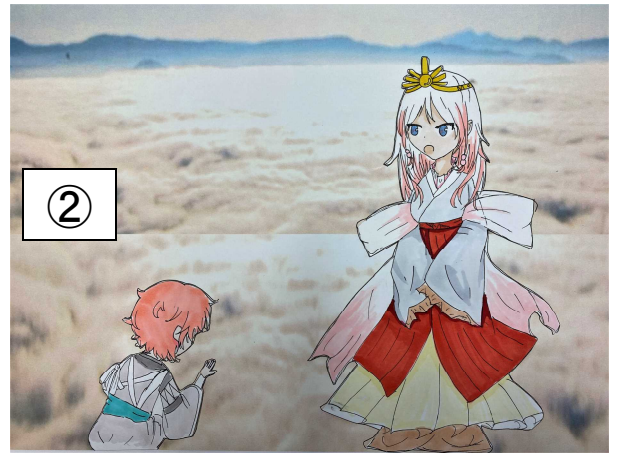
西都市内の小中学校では平成20年より、総合的な学習の時間において市が設定した独自の内容を学ぶ「さいと学」が行われています。昨年、この内容を再編する作業が行われており、本校で部分的に先行実施をしていきましたが、本年度から、この新しいさいと

学が本格的にスタートしました。各学年、年間を大きく二つの内容に分けており、前半では、一年生が「郷土の魅力を見つめ直す探究」、二年生が「修学旅行先と郷土を比較する探究」、そして三年生が「郷土に貢献するプロジェクトの実施と成果発信」で

す。二年生はいよいよ七月三日から二泊三日の修学旅行となります。地形や偉人、歴史的建造物、特産品、郷土料理などを比較する探究の手がかりを見つけて出かけていきます。二年生の修学旅行報告は翌月号で紹介したいと思います。三年の内容を少しだけ紹介します。

紙芝居・第2弾！コノハナサクヤヒメ物語

穂北中学校の文化系ボランティアサークル「Free Staff」が、昨年度の「児玉久右衛門と杉安堰」に続く紙芝居の第2弾「コノハナサクヤヒメ物語」を完成させました。今回は、実際に西都原で撮影した風景画像を加工して背景とし、そこにキャラクター化したニギノミコトやコノハナサクヤヒメを同化させる手法をとるとともに、「実際に現地で外国人にも紹介したい」との思いから英訳まで行ってくれています。ローカルからグローバルへ…、そんな紙芝居が出来ました！



穂波 寿き田の里

古校舍考

「鶯張り(うぐすばり)の廊下」とい

う建築技法をご存じだろうか？ 昔の警報

装置のような音がする。私は、高校の修学旅

行の際に京都二条城の廊下[写真③]で初めて

経験したが、その時は大勢の高校生が歩いて

いたため、ウグイスの声とは程遠い賑々しさ

だったのを思い出す。以後、金沢の忍者屋敷

や京都の知恩院、最近では佐土原の鶴松館

の廊下でも同じような音をきいた▼実は本

校の職員室内を歩くと、鶯張りの廊下のよ

うな音がして雅やかである。職員の往來の多

いコピー機の周辺などは特に賑々しい。本校

の本館は昭和52年の建築であるが、昭和後

期のモダン志向であったのであろうか、校舎

外壁のブルーグレイ同様、床の張り方も他に

類を見ない寄せ木仕立てである[写真①]。一見、バラ

ンゲームの「ジェンカ」[②]を彷彿させる組み木模様

なのだが、小さなピースを組み合わせている分だけ耐

久性は弱く、あちこちで組み木がはがれていたり、隙

間が浮いていたりする▼浮いている組み木を踏んだ

ときに摩擦で音がするのは、偶然にも高度な建築技

術を用いた鶯張りと同じなのだから、古い校舎も「い

とをかし」である。本来は、小まめに接着剤で修復す

べきなのかもしれないが、歩行に支障がない限りは統

合までの残された期間をほんの少し、雅に浸るのも

よいのではなからうか。鶯張りの床のことを、英語で

は「ナイチンゲール・フロア」というらしい。サヨナキド

リのような歌声が響く昭和モダンがもたらした職員

室の奇跡(?)を、穂北中の職員にはあと四年、楽し

んでももらいたいと思います。

(校長 伊東泰彦)



① 穂北中職員室の床



② バランスゲーム・ジェンカ



③ 二条城二の丸御殿の廊下

穂北小・茶臼原小と合同で、職員研修を実施しました！

本校は本年度、県教育委員会のキャリア教育モデル校指定を受けており、地域と連携した教育の実施を目指し、さいと学の先行実施などに取り組んでいます。一方、本校の取組の更なる充実のため、様々な講師を招いての研修も実施していきます。6月22日にも、元旭化成支社長の水永正憲氏、高千穂町の田崎友教氏、椎葉村の天野朋美氏とのクロストークを実施しました。

なお、7月12日の参観日の日には車椅子のシンガーソングライター・真北聖子さんに来ていただき、トーク&ライブをやっていただきますので、楽しみにしてください。



研修の様子

【7月・8月の主な行事】

7月

3～5日…修学旅行：2年生(鹿児島・熊本)

4～6日…さいと学(1・3年)

※7/4…1年生バスツアー

9日…市青年の主張(市民会館)

12日…参観日、真北聖子トーク・ライブ

さいと学アワード校内予選(3年)

20日…一学期終業式

21日…オール西都校則検討委員会(妻中)

22～29日…三者面談

8月

1日…登校日、さいと学アワード(3年生)

23日…キャリア教育研修(職員)

25日…二学期始業式



水永正憲氏



天野朋美氏



田崎友教氏

